

令和5年度 自治基本条例推進委員会 議事録

日時	令和5年7月20日（木）午後3時から5時5分
会場	焼津市役所本庁舎 会議室1A
出席委員（8人）	松下委員長（オンライン）、小長谷委員、吉田委員、中野委員、藤ヶ谷委員、北島委員、関委員、保科委員、向坂委員
欠席委員（2人）	奥山委員、中野委員
事務局出席者（4人）	櫻井課長、緒方主幹、岡村主任主事、大石主事
傍聴者	なし
次第	1 開会 2 挨拶 3 自治基本条例10周年に向けた取組内容について 4 その他

発言者	発言内容
櫻井課長	本日は大変お忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。只今から、令和5年度第2回焼津市自治基本条例推進委員会を開催します。私は、本日司会を務めさせていただきます、市民協働課長の櫻井です。よろしくお願いいたします。なお、奥山委員、中野委員より本日の会議を欠席する旨のご連絡をいただいております。それでは、議事に入ります。進行をお願いいたします。
松下委員長	（オンライン参加であり、現場の人の方が進行しやすいと思うため）関副委員長に進行を任せる。
関副委員長	進行をさせていただく。小長谷委員、何か意見はあるか。
小長谷委員	「ふれあい広場」は、バザーに変わってしまった。福祉の人たちの物産がよい。
関副委員長	昨年まちづくり市民集会は「住みたいまちは自分たちでつくろう」をテーマにやった。これまでの10年間やってきたものが積み上がっているため、それを次の10年へつなげる。北島委員は何か意見はあるか。
北島委員	再確認の振り返りとリスタートの考えがよいと思う。
関副委員長	保科委員、何か意見はあるか。
保科委員	メインは話し合いか物産展の話があるが、何を今求められているのか。結局は、物産展で何をやるのかではないのか。
関副委員長	向坂委員、何か意見はあるか。
向坂委員	人が集まることをやるのはいいことである。例えば、海産物、ハンディキャップの方が作ったもの、高校生が作成したポスターなど。イベントで次につなげる。
関副委員長	確かに多様性は大事。
保科委員	イメージは焼津市役所庁舎オープン記念イベントで、若者や女性など分野ごとのメンバーで話し合うのもいいと思う。様々な人が入るよりも分野ごとにすれば言いやすいと思う。
小長谷委員	大学の学祭のイメージであり、モンゴルの宣伝もよいと思う。
関副委員長	吉田委員、何か意見はあるか。
吉田委員	自治基本条例をどれだけ知ってもらえるかが重要であり、イベントとどう結びつけるかを考えなくてはならない。商工会が開催したふれあい市でやったイベントでは、お寺を知ってもらうために、お寺を会場にし、物販や住職がお寺の説明をした。
関副委員長	藤ヶ谷委員、何か意見はあるか。
藤ヶ谷委員	条例を柱に考えると重いイメージになり、時間の限られた推進委員会だけで決めることは難しい。

北島委員	なぜやるかが重要だと思う。
関副委員長	条例という言葉での宣伝は難しいが、10周年だからやるというかたちでよいのではないか。条例は市役所の仕事であったり、市民の日常生活などのルールという認識。
北島委員	本当の理由は参加者に知ってもらわなくても、難しくならず、楽しんでもらえればよいのではないか。それを10周年のイベントを切り口に条例を普及・啓発していく。
藤ヶ谷委員	条例を制定してから時代は変化している。つながりが重要であり、共生、共同参画、多文化など様々な人が同じ土俵で喜びを味わえる場が必要。
関副委員長	東北の震災を機に地域のつながりがより重要になった。
松下委員長	条例は一人ひとりが持っている力、個性を発揮することでそれが価値になり、まちづくりになる。まずは知ること、それを与える機会がつながりの場になる。そうすれば難しいことを言葉で説明しなくても体感できる。
保科委員	はあとふるYaizuのイベントのイメージか。そのレベルであるならば、もう一つ実行委員会を作ってやらないと難しい。
小長谷委員	そのイメージでよいと思う。
北島委員	来場者が買い物だけをするでは意味がない。
保科委員	その通りで、マルシェのイメージではない。
櫻井課長	はあとふるYaizuについて説明
小長谷委員	ふれあい広場も同様の形式で予算は10万円。
関副委員長	目的は知ってもらい、確認すること。イベント、話し合いなど何をやるか決める。会場はどこがよいか。
北島委員	先に対象や規模を決めてから場所を決める方がよいと思う。
関副委員長	文化会館小ホールか総合福祉会館のどちらか。
小長谷委員	総合福祉会館は駐車場がない。
保科委員	天候に左右されない屋内がよいと思う。
関副委員長	何をやるか。飲食がないと集客は難しい。それに加えて活動者の発表。
北島委員	子どもをターゲットにすれば、親なども来る。
向坂委員	行きたくなる場所が必要であり、それは買い物。店を出すなら屋外で、ついでに見るものがあればいい。また子どもが何かやった方が見に来る人も多いのではないか。
北島委員	どういう人を対象にするかによると思う。
小長谷委員	シミュレーション体験やおもちゃは子どもに人気。
向坂委員	ターントクルなどと連携はよいと思う。
保科委員	来て終わるだけにならないか。何人規模にするか。
藤ヶ谷委員	何をやりたいかが重要。
保科委員	市政100周年記念で実施したように庁舎内で食べたり、議場にスタンプラリーを置いたりして見学体験するなど。
関副委員長	大規模でなくとも、市役所本館1Bで多様性話し合い、海街ホールで催し物をしたり庁舎を体験してもらうのはどうか。
北島委員	何人規模か。
松下委員長	自分は、たくさん来るような大規模をイメージしている。そこで様々な人や様々なものが集まる。
関副委員長	そうなると場所は文化会館小ホール。
吉田委員	子どもの作品を飾るのはどうか。
藤ヶ谷委員	学校で作ったものを飾るのはよいが、そのために作らせると教育現場の負担が大きい。子どもたちを題材にするなら取り組みやすくなる例えばごみの問題、分別がよい。それを外国人へ伝える。文化祭みたいにやった方がいい。
北島委員	物販とワークショップのハイブリットもよい。
関副委員長	それでよいと思う。
向坂委員	様々なブースを作る。水産高校の物産と市の仕事、子どもの作品の展示はどうか。
藤ヶ谷委員	食べ物と学ぶ、体験するものでよい。内容はプロジェクトチームなどで検討でよい。

北嶋委員	そのブースに自由に参加してもらい、自治基本条例と結びつける。
関副委員長	やる内容は、いろいろな分野の展示や物販でウェルカムドリンクなどイートスペースみたいなものも検討。 多様性の話し合いは必要か。
北嶋委員	話し合いブースでワールドカフェ方式でやればよいのではないか。
藤ヶ谷委員	(全て) 同じ空間でできるか。
保科委員	小ホールと展示室を用意するか。
松下委員長	話し合いは別にした方がよい。
関副委員長	話し合いは市民集会でやってもよい。条例10周年はイベント、多様性でブースをやる。これにはPRも必要になる。
松下委員長	PRはやり方や内容による。
関副委員長	他市とのコラボはどうか。
松下委員長	まだ、声掛けはしていないが、当てがあり問題ないと思う。
保科委員	まずは焼津市の中のことを決めないとではないのか。
関副委員長	中も大事。 イベント開催は来年度秋を考えているが、プロジェクトチームはいつから始めるか。
保科委員	推進委員会だけでは決められないため早めに決めていかないといけないと思う。メンバーは推進委員会の委員も入る。
北嶋委員	予算要求もあるので早い方がよい。
関副委員長	市民集会が終わってからでよいか。
松下委員長	良いと思う。他の団体への周知も考えなければならない。
関副委員長	(条例10周年イベント) 開催時期は具体的にいつにするか。
北嶋委員	10月、11月は他イベントが多いため、9月はどうか。
緒方主幹	何の予算(会場費、人件費など)を要求するか決める必要がある。
櫻井課長	文化会館であっても、意外とスペースは限られている。また場合によっては売上を求められることもある。
緒方主幹	イベントによって変わってくる委託料はどうするか。
関副委員長	必要だと思う。
保科委員	推進委員会はやるかを決め、やる内容はプロジェクトチームで決める。プロジェクトチームにはどんな人を募集するのか。
北嶋委員	コアなメンバーを決めてそこから広げていくのがよい。
関副委員長	予算が取ることができるかわからないが、コアなメンバーで進めてそこから必要な人を声掛けして集めていく。
櫻井課長	何を要求するか。要求するには全て説明していかなければならない。 本日は時間がないので、改めて個別に相談させていただく。
松下委員長	今日の内容をまとめていただきたい。
緒方主幹	(次回の推進委員会について日程調整)
櫻井課長	それでは、これもちまして第2回自治基本条例推進委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。